

ひとり親世帯臨時特別給付金受給者 アンケート調査 結果報告書

R2.12.25 子) 子育て支援課

調査目的

ひとり親世帯臨時特別給付金の受給者の状況を把握するとともに、ひとり親家庭に対する今後の支援の在り方について検討する。

調査対象と回収サンプル数

(1) 家計急変世帯

○ひとり親世帯臨時特別給付金の受給世帯のうち、所得超過による令和2年6月分児童扶養手当未受給世帯で、かつ、新型コロナウイルス感染症の影響で家計が急変した世帯（9月23日時点で341世帯を把握）から無作為抽出した300世帯

○回収数：144件（回収率：48.0%）

(2) 児童扶養手当受給世帯

○ひとり親世帯臨時特別給付金の受給世帯（年金受給世帯を除く）のうち、令和2年6月分児童扶養手当を受給した世帯及び6月以降に新規で児童扶養手当を受給することとなった世帯（9月24日時点で16,267世帯を把握）から無作為抽出した500世帯

○回収数：209件（回収率：41.8%）

調査期間

令和2年10月9日～令和2年10月26日（12月10日到着分まで計上）

調査手法

アンケート用紙の発送・回収とも郵送による

注記

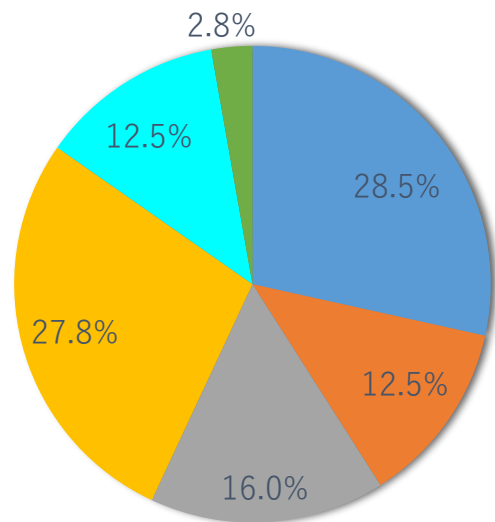
○表記の割合は選択肢ごとに少数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

○複数回答の設問における表記の割合は、回答数の合計数に対する割合としている。

問1-1 養育費の受取り状況 [単一回答]

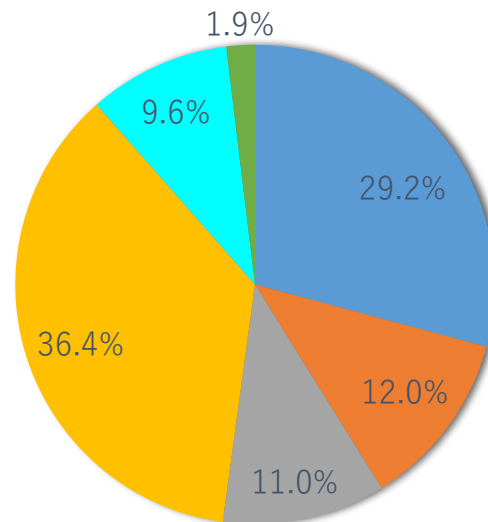
養育費について「継続して受け取っている」と回答した世帯は、家計急変世帯・児童扶養手当受給世帯共に3割弱に止まっており、「過去に受け取ったことはあるが現在は受け取っていない」と回答した世帯を合わせても4割強という結果であった。

家計急変世帯（サンプル数N=144）



- 継続して受け取っている
- 過去に受け取ったことがあるが現在は受け取っていない
- 取決めはしたが受け取ったことはない
- 取決めをしていない
- 養育費の対象外（離婚・死別等）
- 無回答

児童扶養手当受給世帯（サンプル数N=209）



- 継続して受け取っている
- 過去に受け取ったことがあるが現在は受け取っていない
- 取決めはしたが受け取ったことはない
- 取決めをしていない
- 養育費の対象外（離婚・死別等）
- 無回答

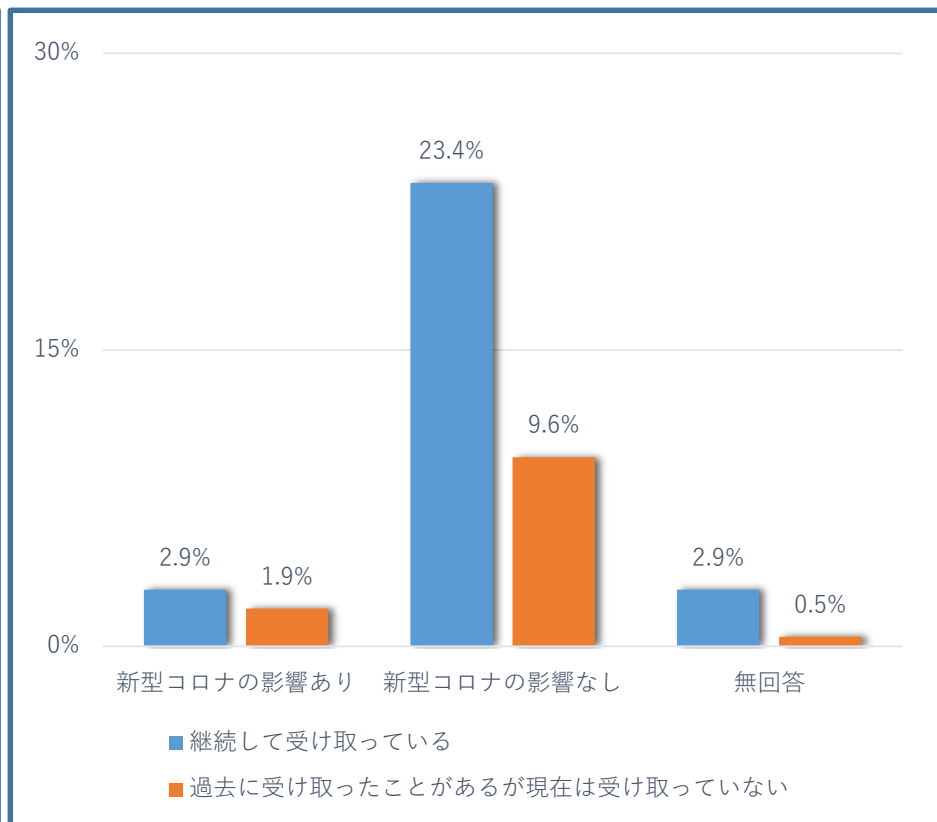
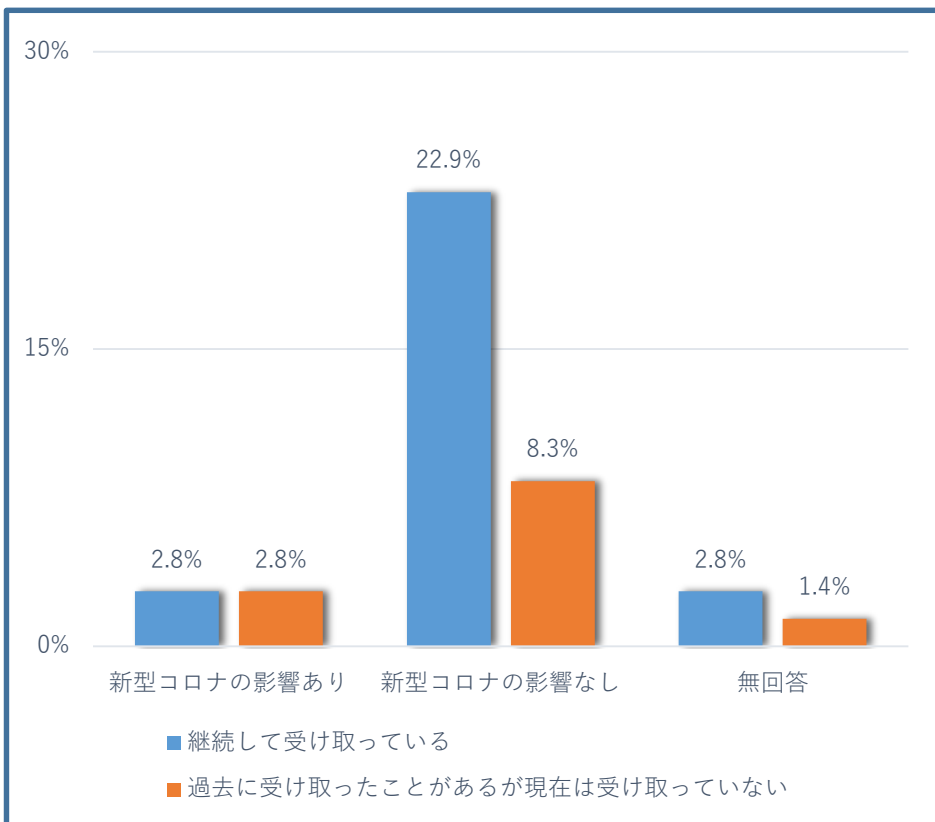
問1-2 新型コロナウイルス感染症の養育費受取りへの影響 [単一回答]

「養育費を継続して受け取っている」と回答した世帯のうち、約3%の世帯が「新型コロナウイルスの影響による減額があった」と回答している。

また、新型コロナウイルスの影響で養育費が受け取れなくなった世帯は、家計急変世帯の2.8%、児童扶養手当受給世帯の1.9%であった。

家計急変世帯 (N=144)

児童扶養手当受給世帯 (N=209)



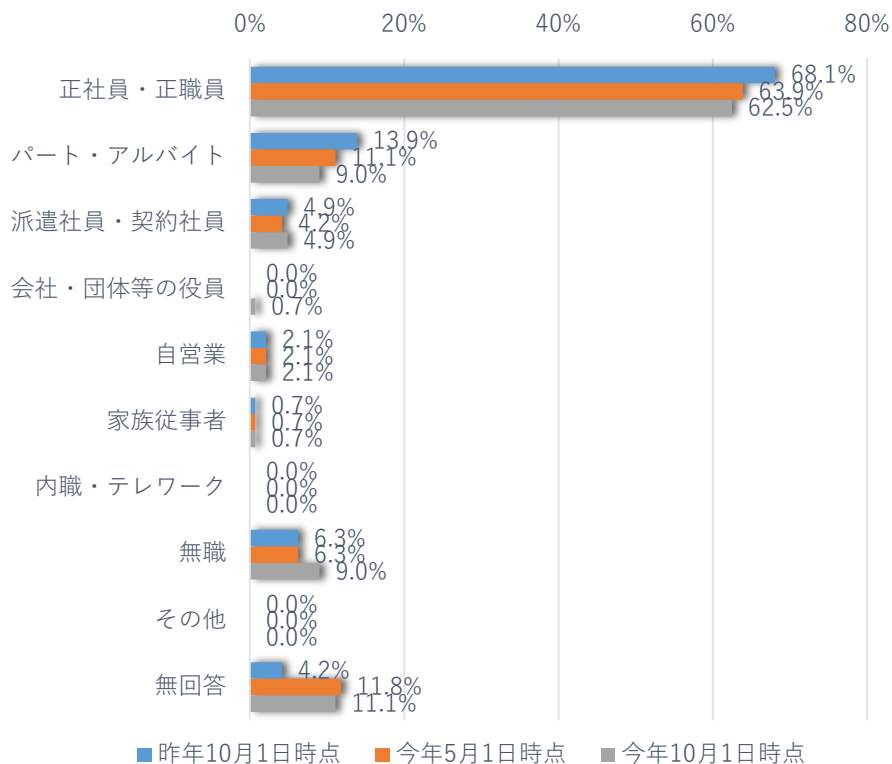
問2 雇用形態 [単一回答]

回答者の主な雇用形態について、新型コロナウイルスの感染拡大前の令和元年10月1日時点と、令和2年5月1日時点、令和2年10月1日時点で比較した。

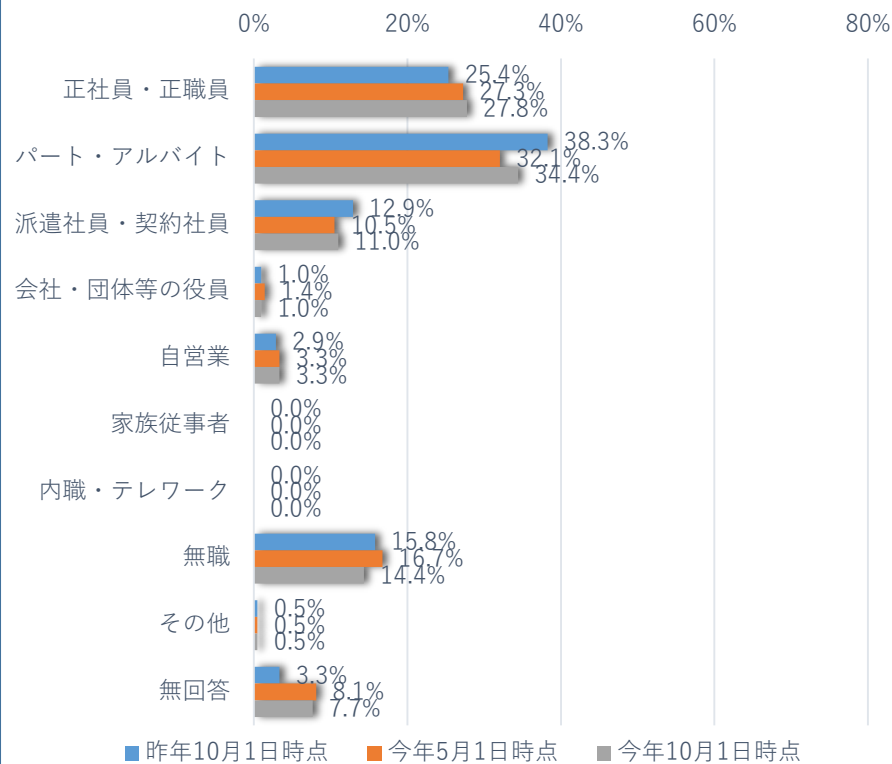
家計急変世帯では、「正社員・正職員」「パート・アルバイト」との回答が漸減となっている一方で、「無職」との回答が令和2年10月1日時点になって増加している。

児童扶養手当受給世帯では、「正社員・正職員」との回答が漸増となっている一方で、「無職」との回答は令和2年5月1日時点では増加したが、10月1日時点では1年前より減少している。

家計急変世帯 (N=144)



児童扶養手当受給世帯 (N=209)

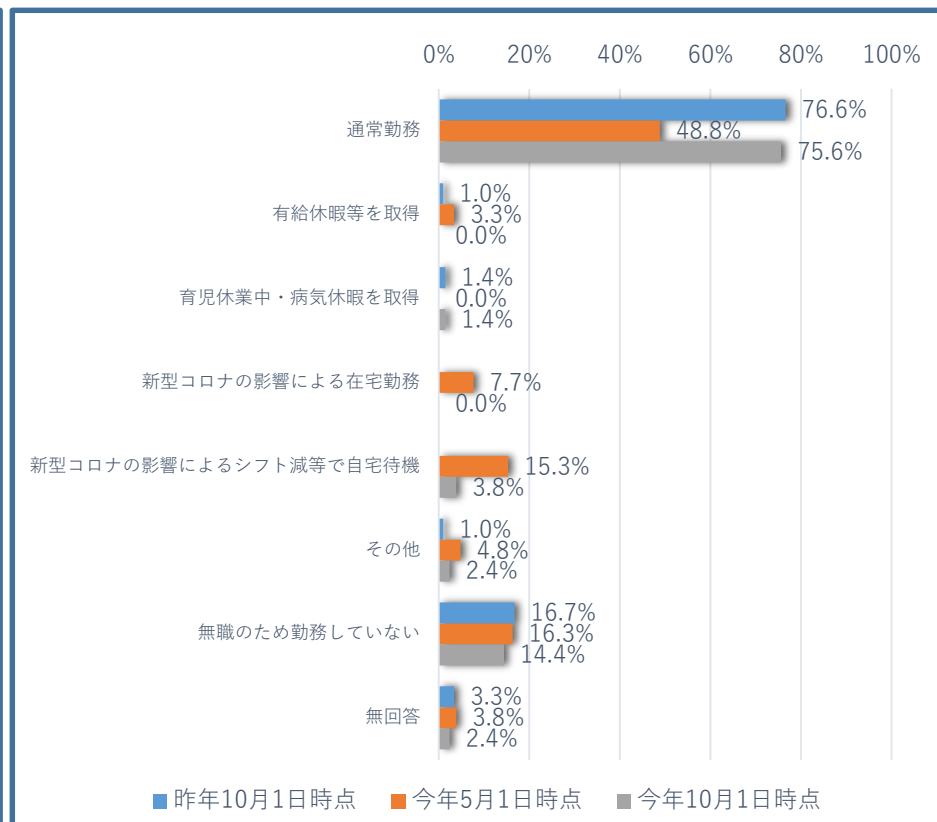
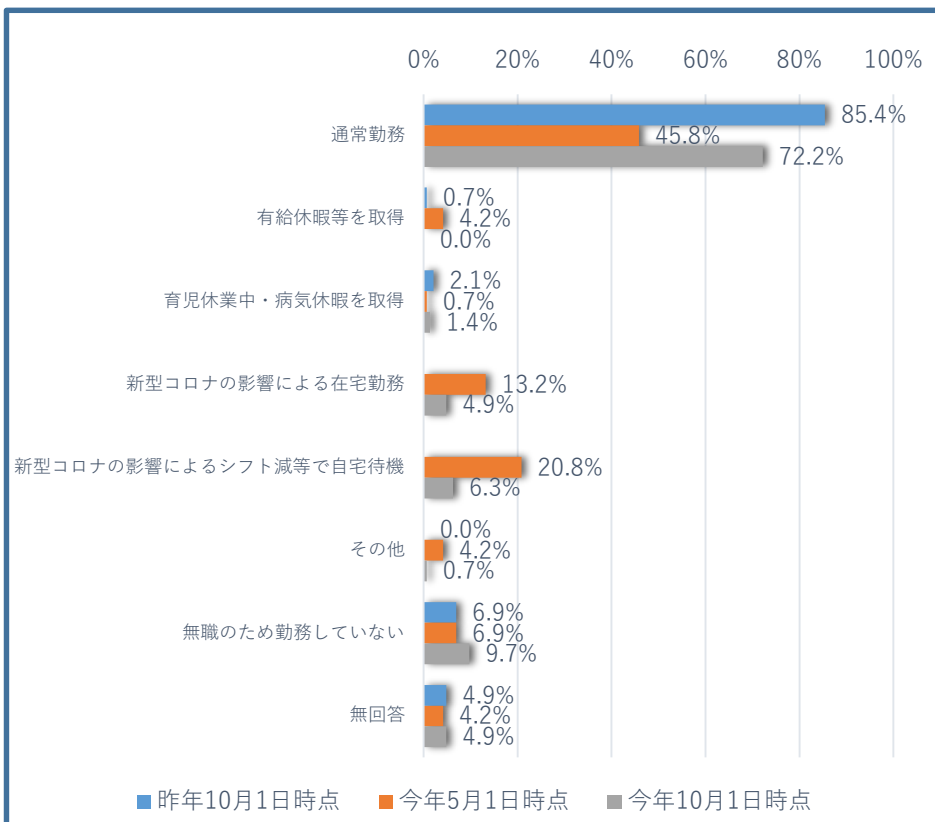


問3 勤務状況 [単一回答]

令和2年5月1日現在の勤務状況に関する回答から、家計急変世帯・児童扶養手当受給世帯共に、新型コロナウイルスの影響によって通常勤務の割合が激減したことが明らかになった。令和2年10月1日時点の状況を見ると、家計急変世帯では、1年前の水準までは至らないものの、通常勤務の割合は増加しており、児童扶養手当受給世帯ではほぼ1年前の水準まで戻っている。

家計急変世帯 (N=144)

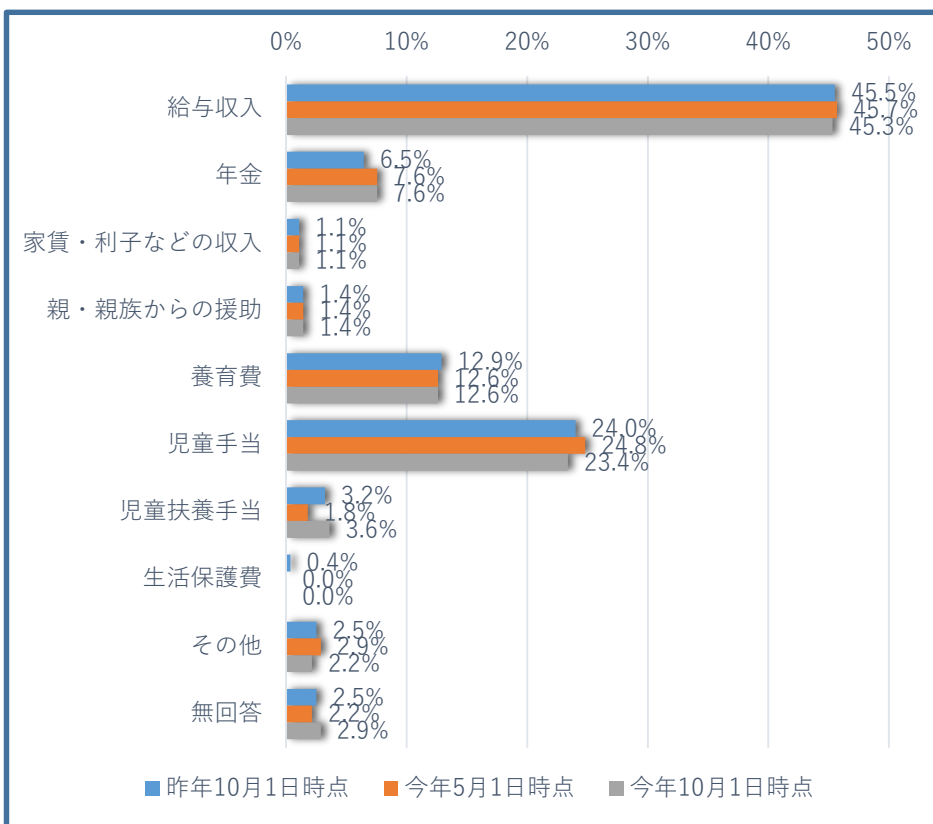
児童扶養手当受給世帯 (N=209)



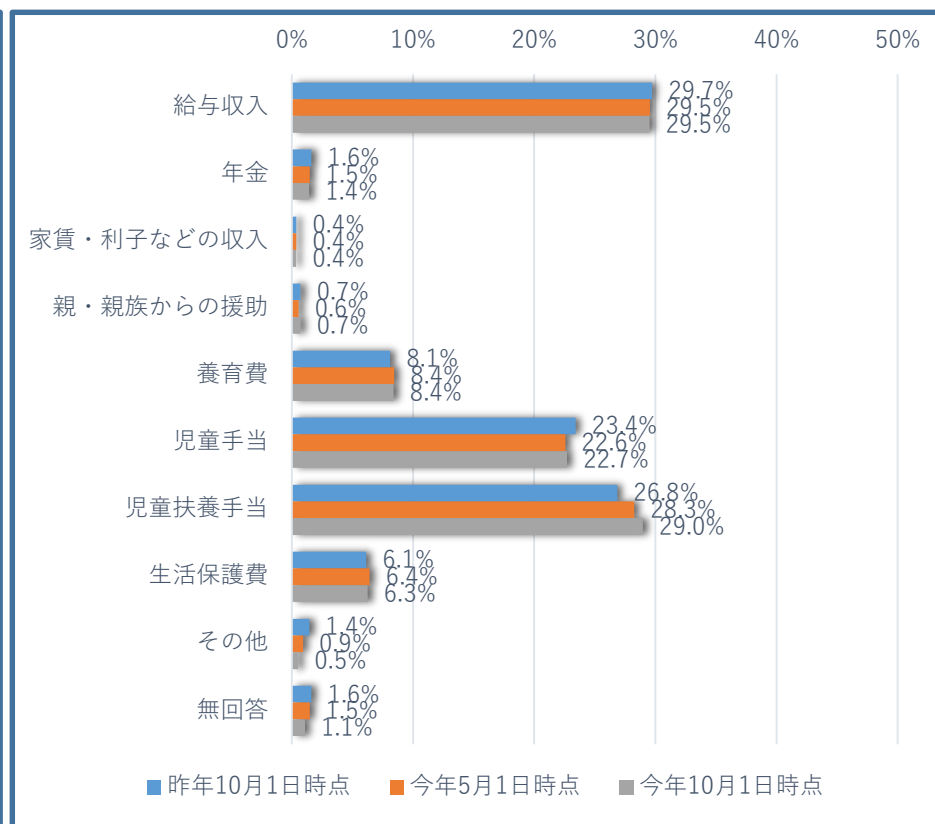
問4 世帯の収入の種類 [複数回答]

同居家族全員の世帯収入の種類についての設問では、新型コロナウイルスの影響による大きな変化は見られなかった。

家計急変世帯 (N=144)



児童扶養手当受給世帯 (N=209)



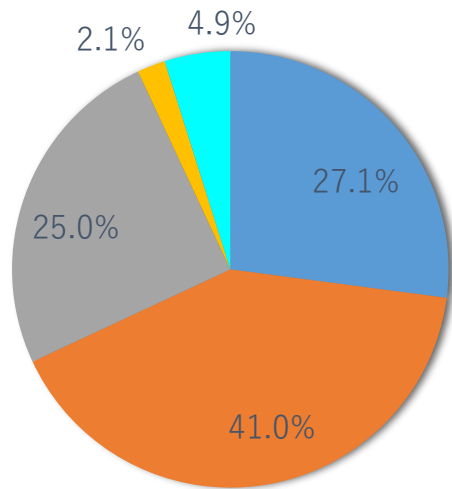
問5-1 就労による世帯月収の状況（令和2年5月1日時点） [単一回答]

就労による世帯月収について、令和元年10月1日時点と比較して令和2年5月1日時点でどのような状況だったか回答を求めた。

「減った」と回答したのは、家計急変世帯で68.1%、児童扶養手当受給世帯でも48.8%であった。

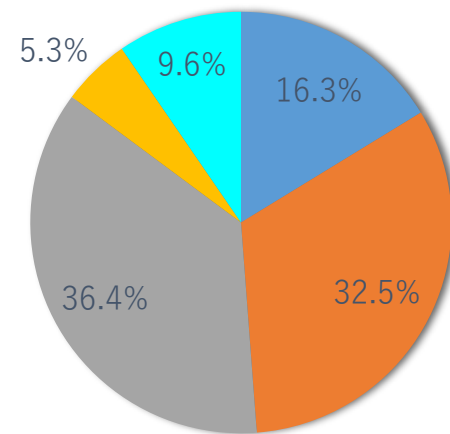
中でも、新型コロナの影響によって「生活状況がかなり悪化する程度に月収が減った」と回答した世帯は、家計急変世帯で27.1%、児童扶養手当受給世帯で16.3%に上った。

家計急変世帯（N=144）



- 生活状況がかなり悪化する程度に月収が減った
- 生活状況に大きな変化はない範囲だが月収が減った
- 月収は変わらない
- 月収は増えた
- 無回答

児童扶養手当受給世帯（N=209）



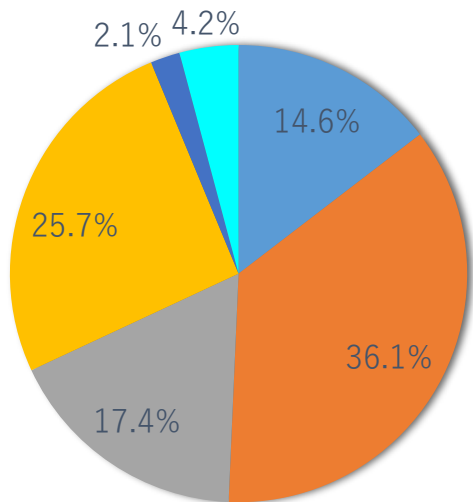
- 生活状況がかなり悪化する程度に月収が減った
- 生活状況に大きな変化はない範囲だが月収が減った
- 月収は変わらない
- 月収は増えた
- 無回答

問5-2 就労による世帯月収の状況（令和2年10月1日時点①） [単一回答]

就労による世帯月収について、令和2年5月1日時点と比較して令和元年10月1日時点でどのような状況だったか回答を求めた。

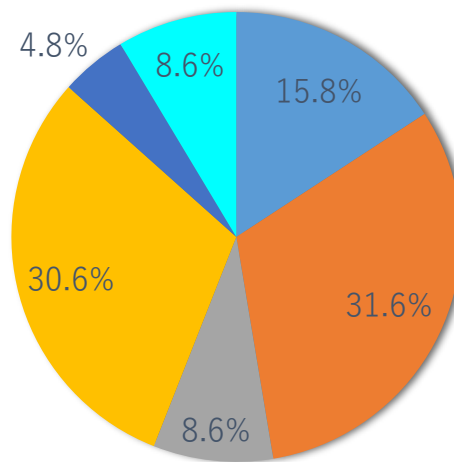
家計急変世帯で14.6%、児童扶養手当受給世帯でも15.8%が、「5月1日時点よりも減った」と回答している。また、「5月1日時点と同じぐらい」との回答も、家計急変世帯で36.1%、児童扶養手当受給世帯でも31.6%に上っており、依然として厳しい状況であることが判明した。

家計急変世帯（N=144）



- 今年5月1日時点よりも減った
- 今年5月1日時点と同じぐらい
- 今年5月1日時点よりは増えたが昨年10月1日時点の月収までは回復していない
- 昨年10月1日時点と同じぐらい
- 昨年10月1日時点よりも増えた
- 無回答

児童扶養手当受給世帯（N=209）



- 今年5月1日時点よりも減った
- 今年5月1日時点と同じぐらい
- 今年5月1日時点よりは増えたが昨年10月1日時点の月収までは回復していない
- 昨年10月1日時点と同じぐらい
- 昨年10月1日時点よりも増えた
- 無回答

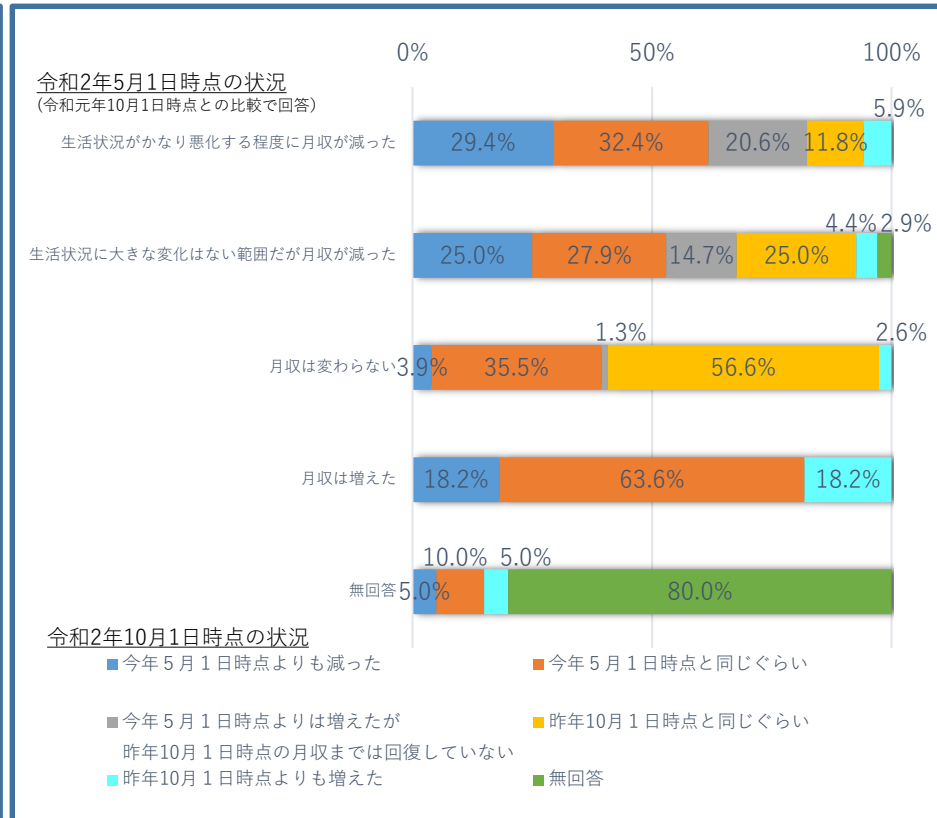
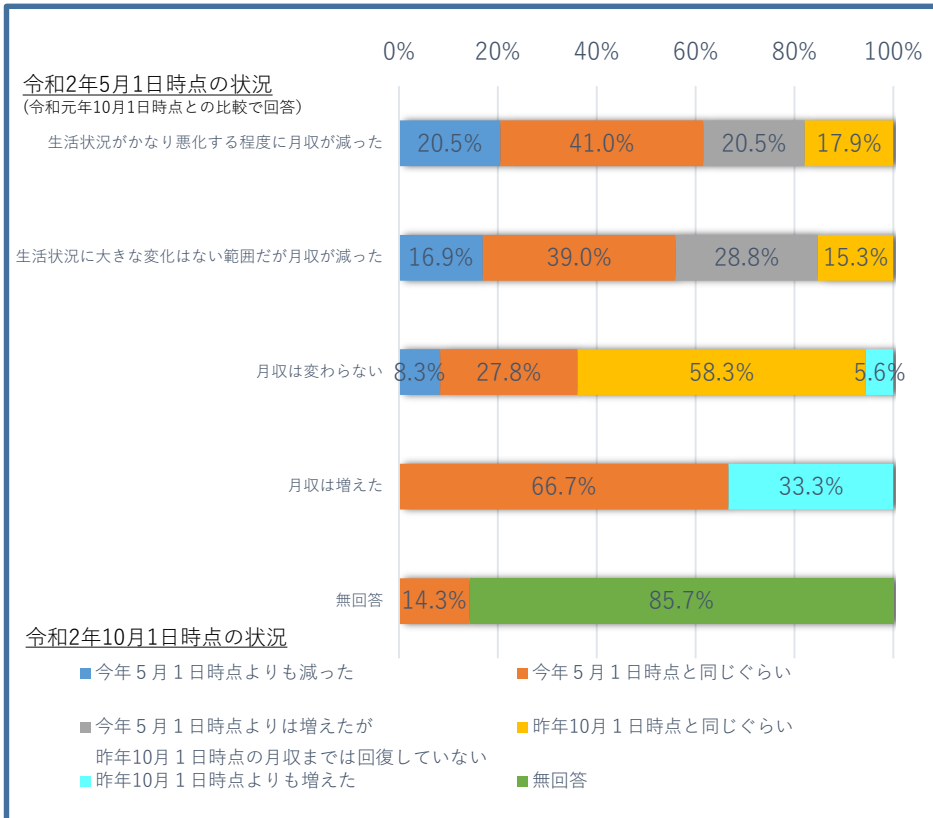
問5-3 就労による世帯月収の状況（令和2年10月1日時点②） [単一回答]

就労による世帯月収について、問5-1では、令和元年10月1日現在と比較した令和2年5月1日時点の状況について回答を求め、更に問5-2では、その状況が令和2年10月1日時点でどう変化したかについて回答を求めている。それらをクロス集計したものが、問5-3である。

5月1日時点で「生活状況がかなり悪化する程度に世帯月収が減った」と回答した世帯のうち、10月1日時点における世帯月収について「5月1日時点よりも減った」「5月1日時点と同じぐらい」と回答した世帯は6割以上と、厳しい生活状況が明らかになった。

家計急変世帯（N=144）

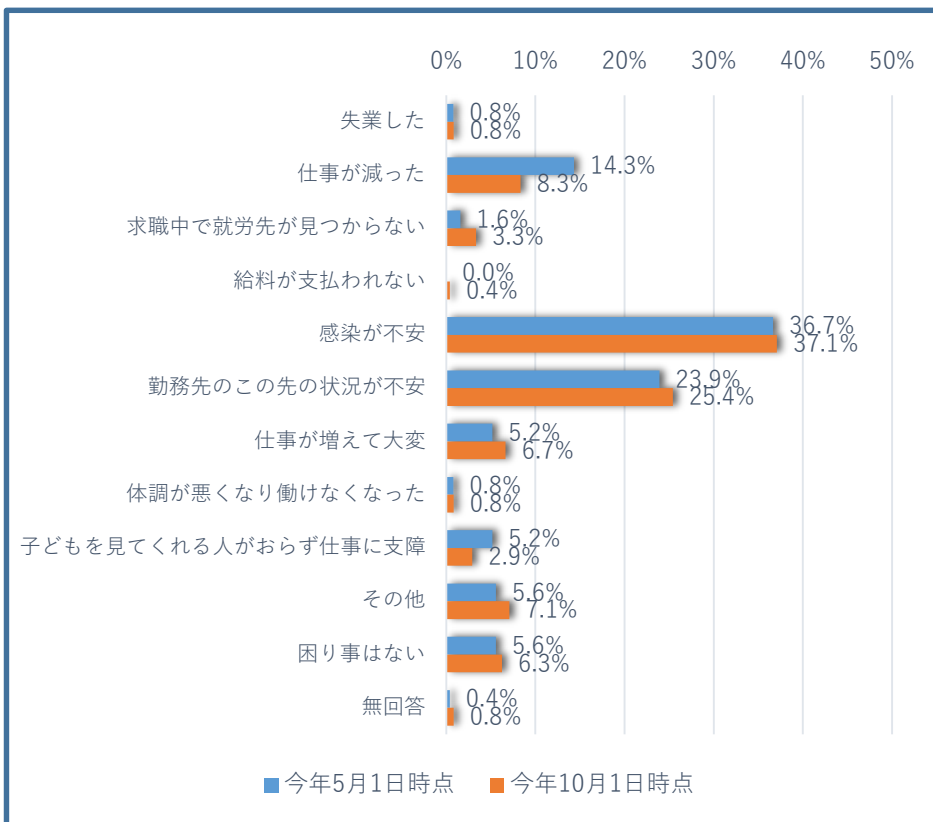
児童扶養手当受給世帯（N=209）



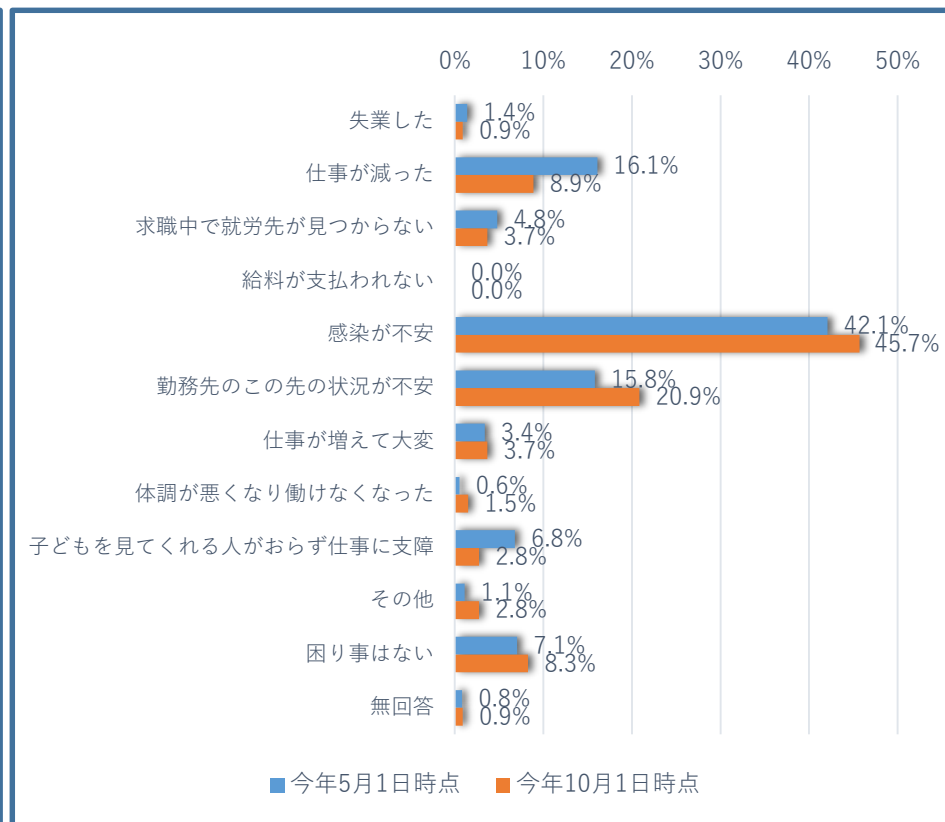
問6 新型コロナウイルス感染症の影響による就労上の困り事 [複数回答]

新型コロナウイルスの影響による就労上の困り事については、「感染が不安」という回答が最も多く、次いで「勤務先のこの先の状況が不安」という回答が多かった。これらの回答については、令和2年5月1日時点よりも、10月1日時点の方が更に回答数が増加している。

家計急変世帯 (N=144)



児童扶養手当受給世帯 (N=209)



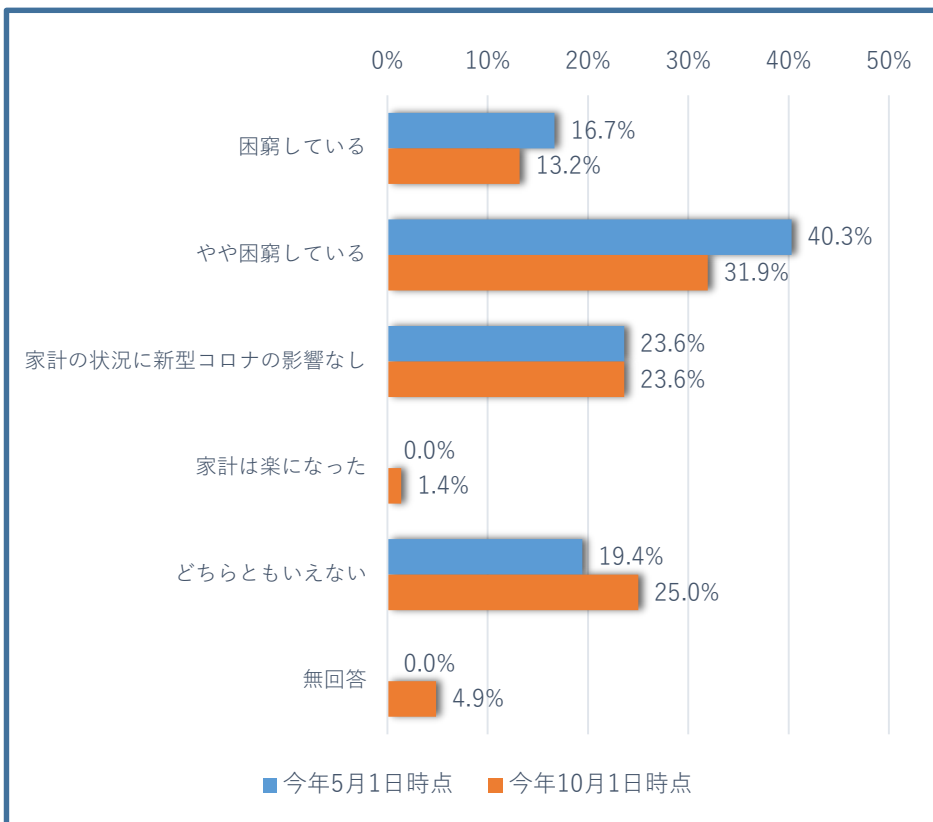
問7 新型コロナウイルス感染症の影響による家計の困窮状況 [単一回答]

新型コロナウイルスの影響による家計の困窮状況を、令和2年5月1日時点と10月1日時点で比較した。10月1日時点においては、「困窮している」「やや困窮している」と回答した世帯が、5月1日時点に比べてそれぞれ減少している。

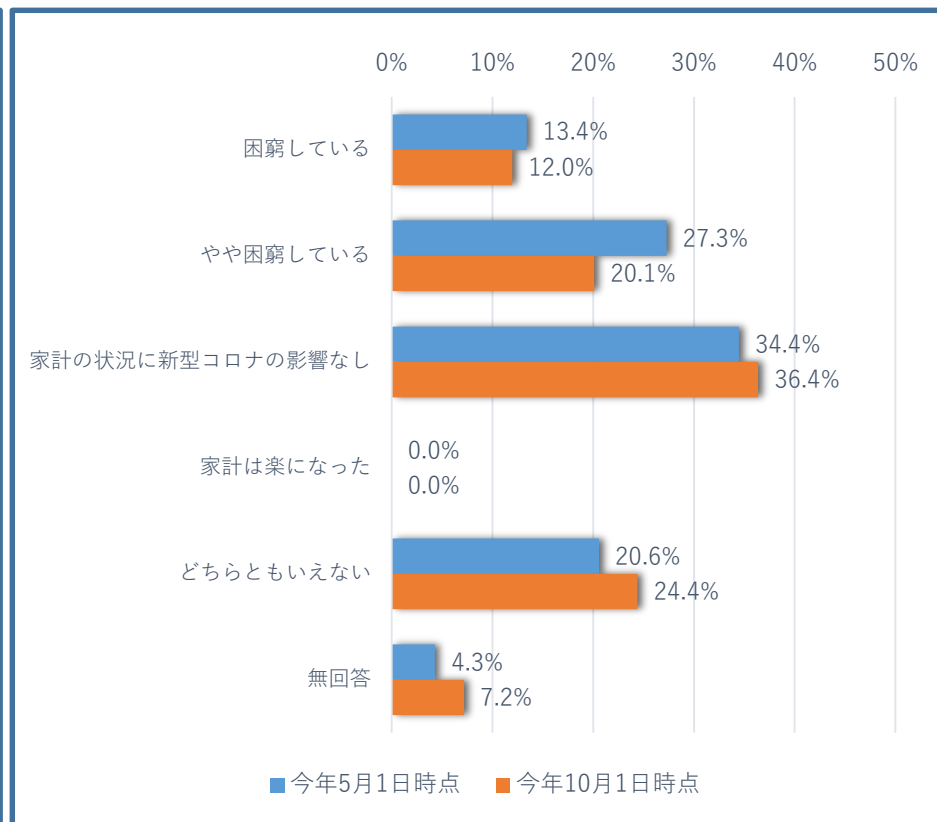
児童扶養手当受給世帯では、「影響なし」と回答した世帯の割合が最も多く、児童扶養手当や生活保護等の各種制度による家計の下支えがあったことが推測される。

とはいえ、新型コロナウイルスの影響で困窮している世帯が依然として多いことが明らかになった。

家計急変世帯 (N=144)



児童扶養手当受給世帯 (N=209)



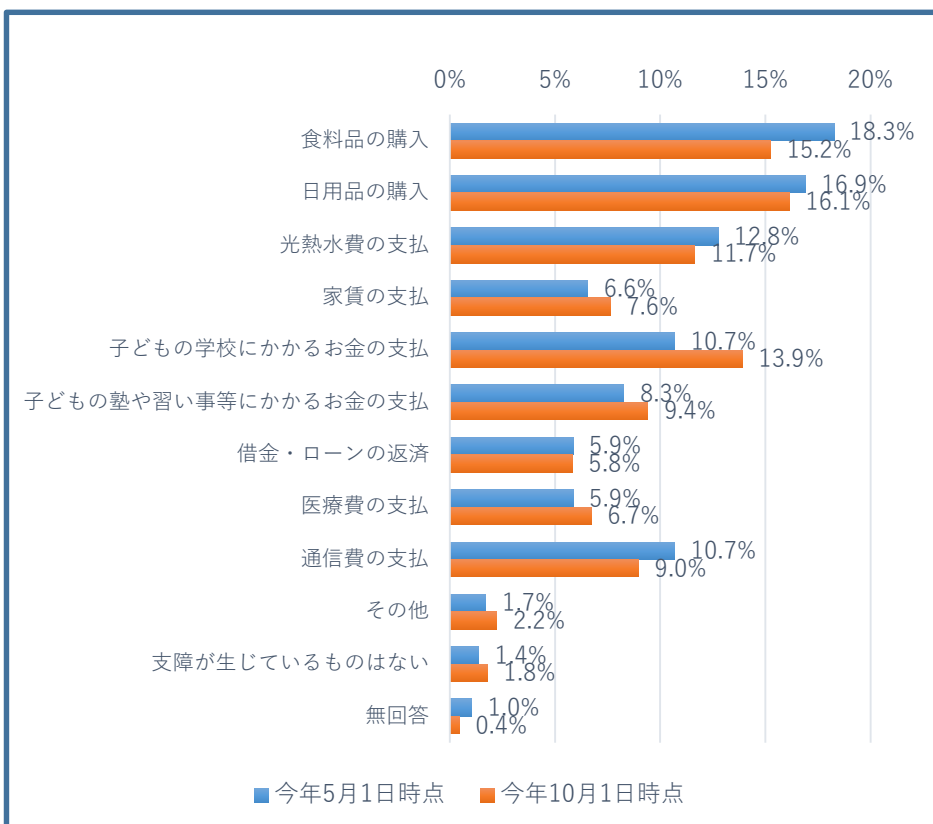
問8 家計の困窮による支障 [複数回答]

問7において新型コロナウイルスの影響で家計が困窮していると回答した世帯に対し、何に支障が生じているかについて回答を求めた。

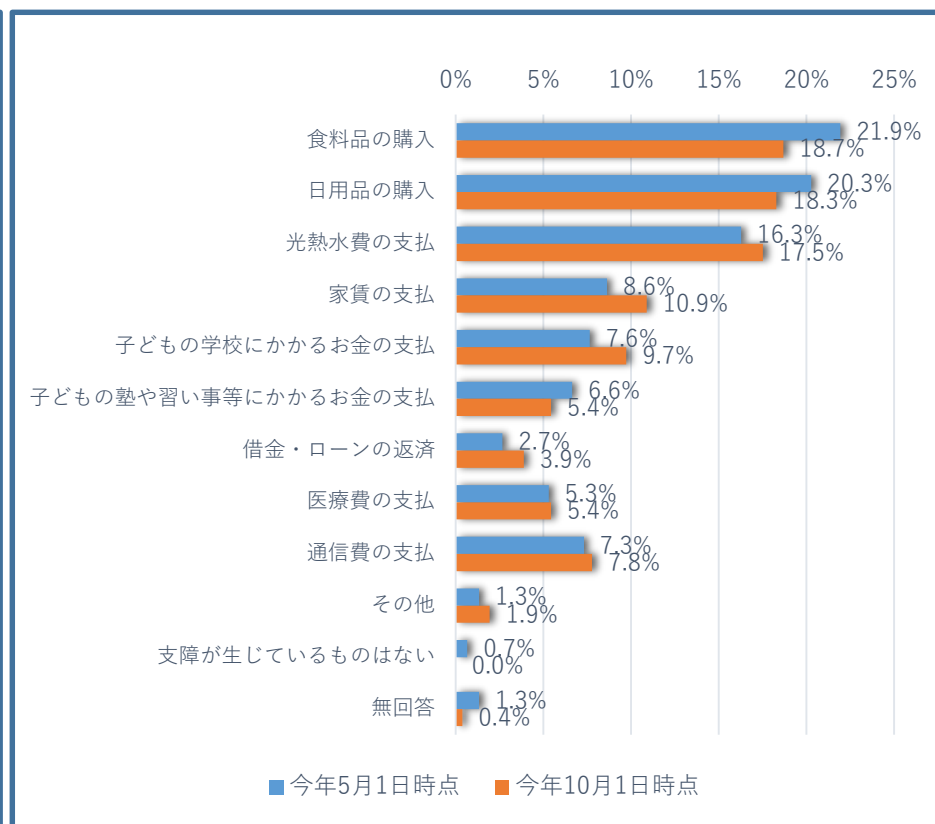
最も回答が多かったのが「食料品の購入」で、次いで「日用品の購入」が多かった。

令和2年10月1日時点の回答数について、家計急変世帯・児童扶養手当受給世帯共に5月1日時点よりも増えたのは、「家賃の支払」「子どもの学校にかかるお金の支払」「医療費の支払」であった。

家計急変世帯 (N=85)



児童扶養手当受給世帯 (N=85)

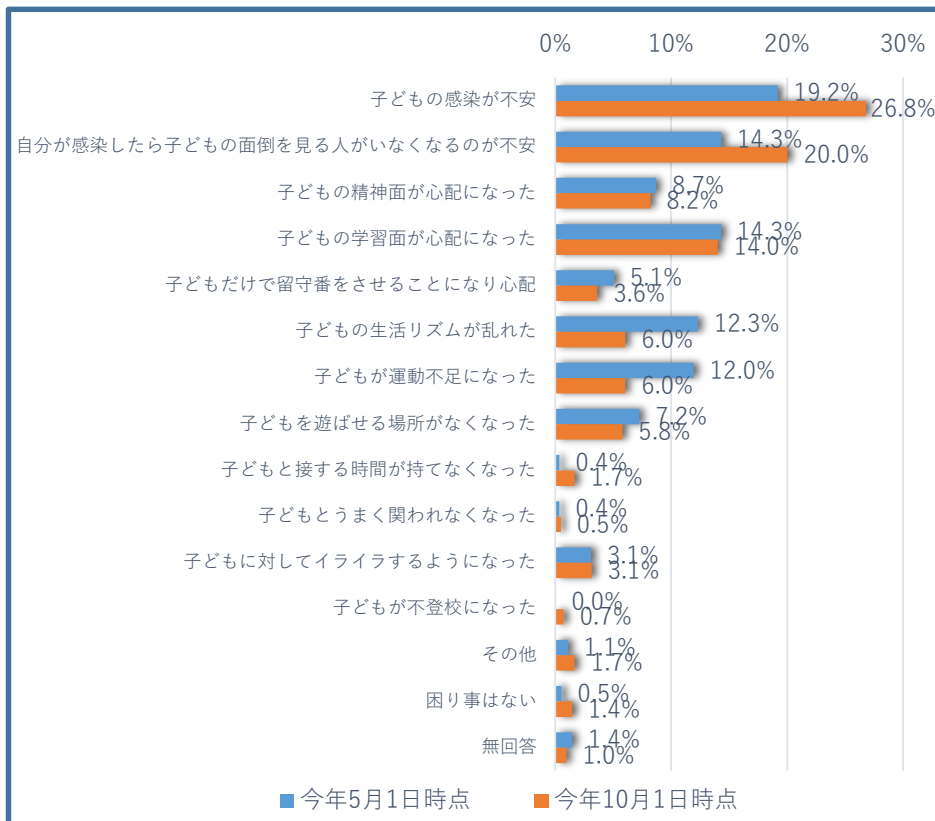


問9 新型コロナウイルス感染症の影響による子育ての悩みや不安 [複数回答]

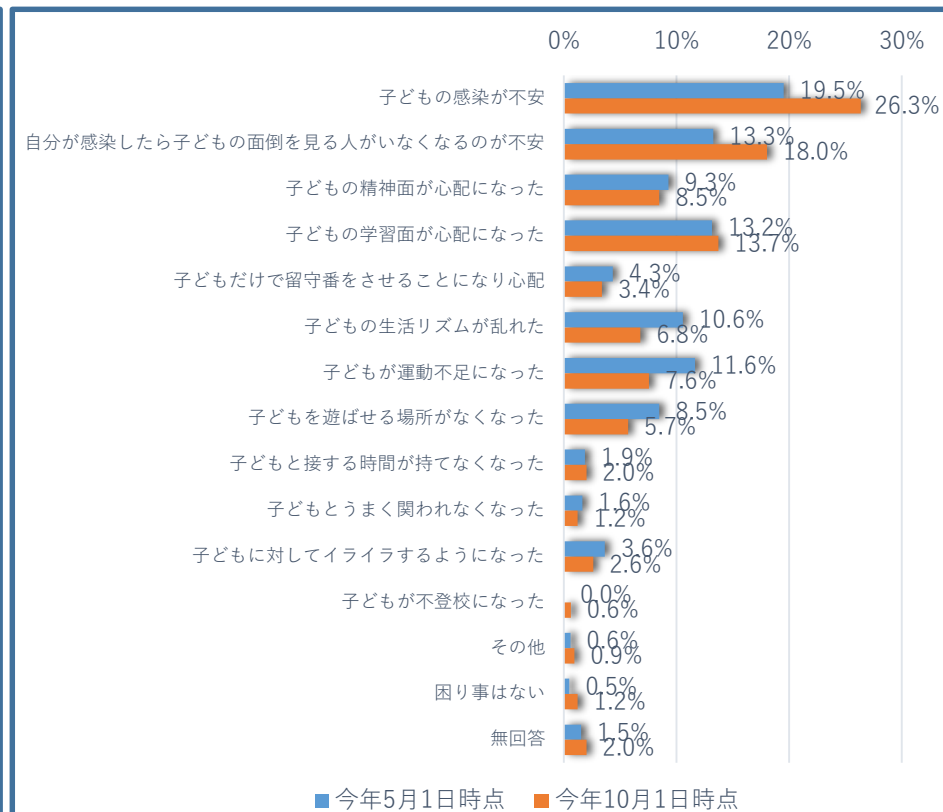
新型コロナウイルスの影響による子育ての悩みや不安について回答を求めた。最も回答が多かったのが「子どもの感染が不安」で、次いで「自分が感染したら子どもの面倒を見る人がいなくなるのが不安」が多く、いずれも、令和2年5月1日時点よりも10月1日時点の回答数が増加している。

また、「子どもの学習面が心配になった」という回答の多さも目立っている。

家計急変世帯 (N=144)



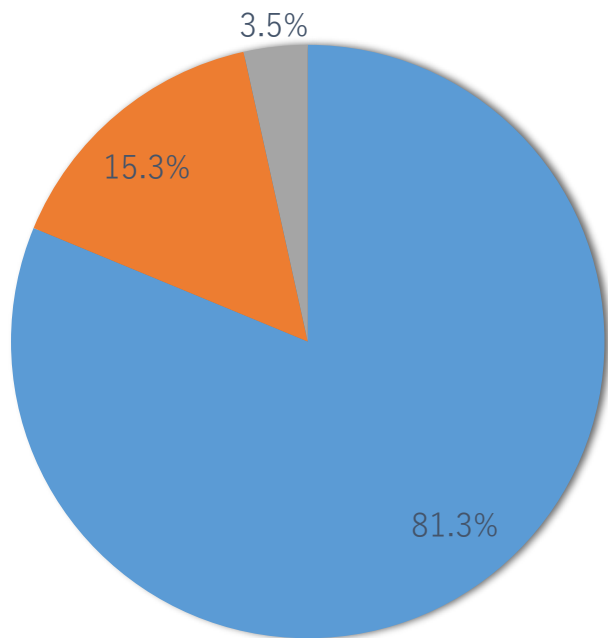
児童扶養手当受給世帯 (N=209)



問10 困ったときの相談相手の有無 [単一回答]

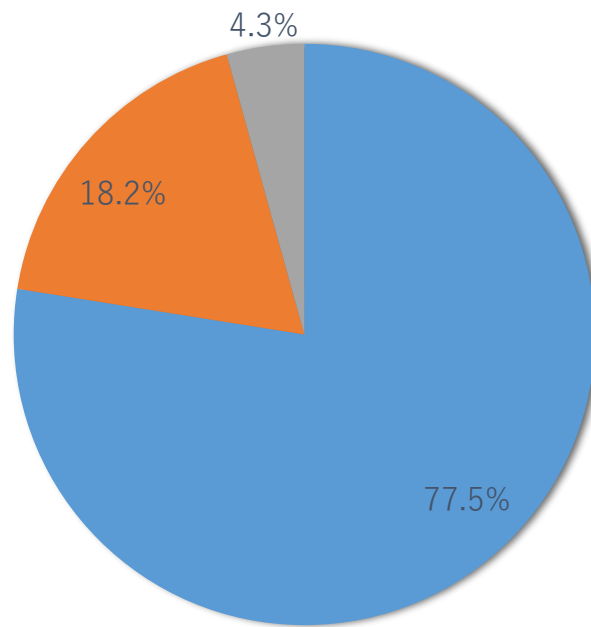
困ったときの相談相手の有無について回答を求めたところ、「いる」との回答は約8割であった。

家計急変世帯 (N=144)



■ いる ■ いない ■ 無回答

児童扶養手当受給世帯 (N=209)



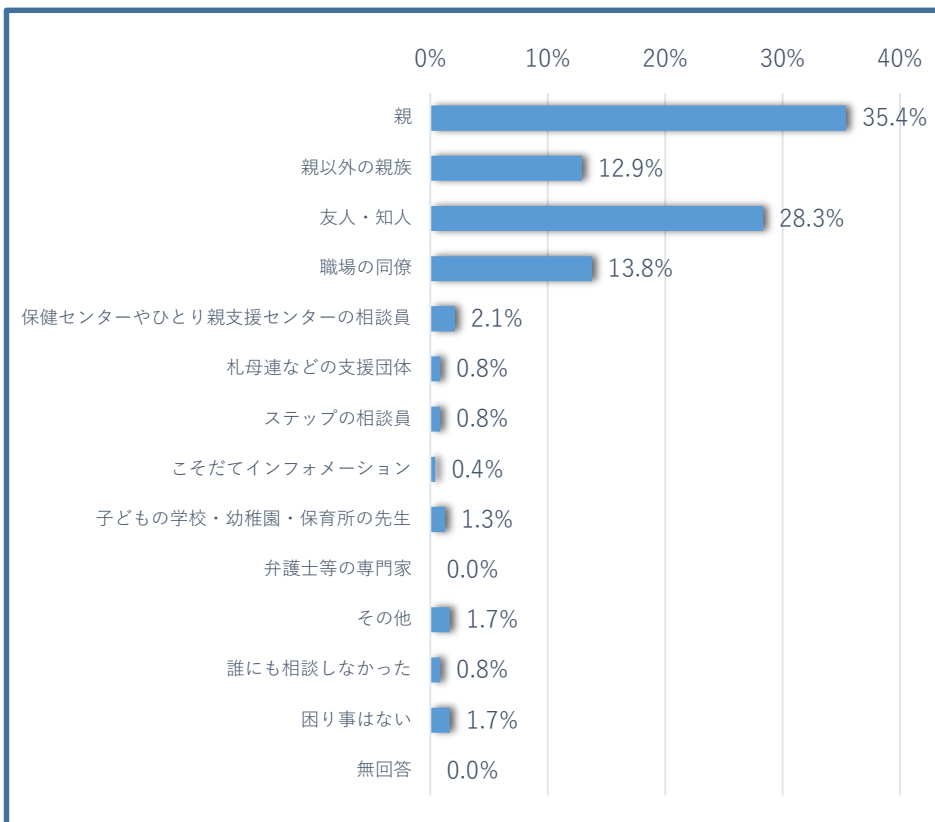
■ いる ■ いない ■ 無回答

問11 新型コロナウイルス感染症の影響による困り事の相談先 [複数回答]

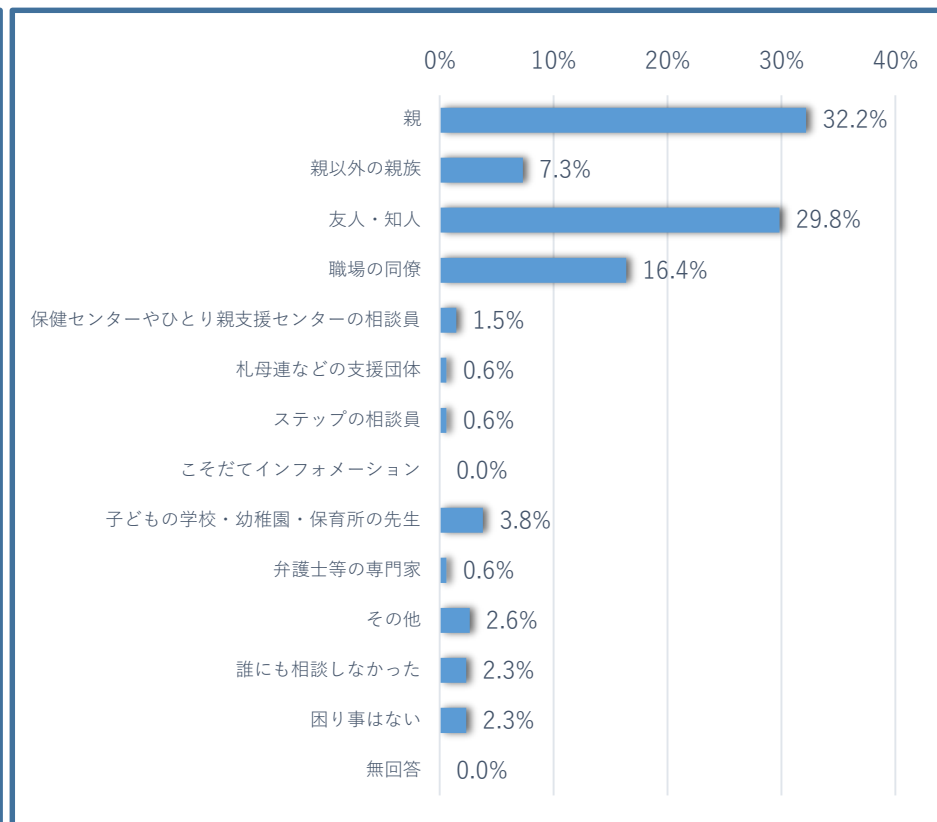
問10において困ったときの相談相手がいると回答した世帯に対し、新型コロナウイルス感染症の影響による困り事の相談先について回答を求めた。

一番多かったのは、「親」で、「友人・知人」、「職場の同僚」が続いた。

家計急変世帯 (N=117)



児童扶養手当受給世帯 (N=162)

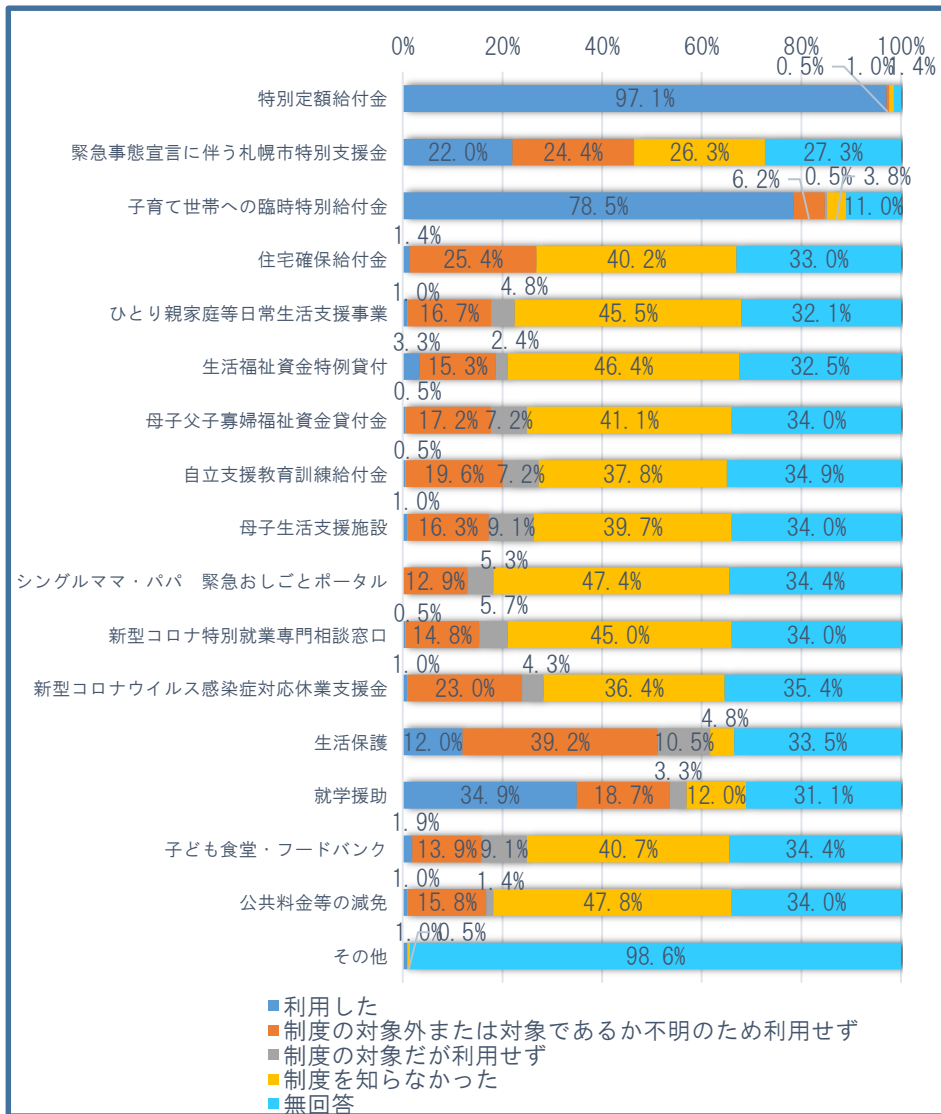
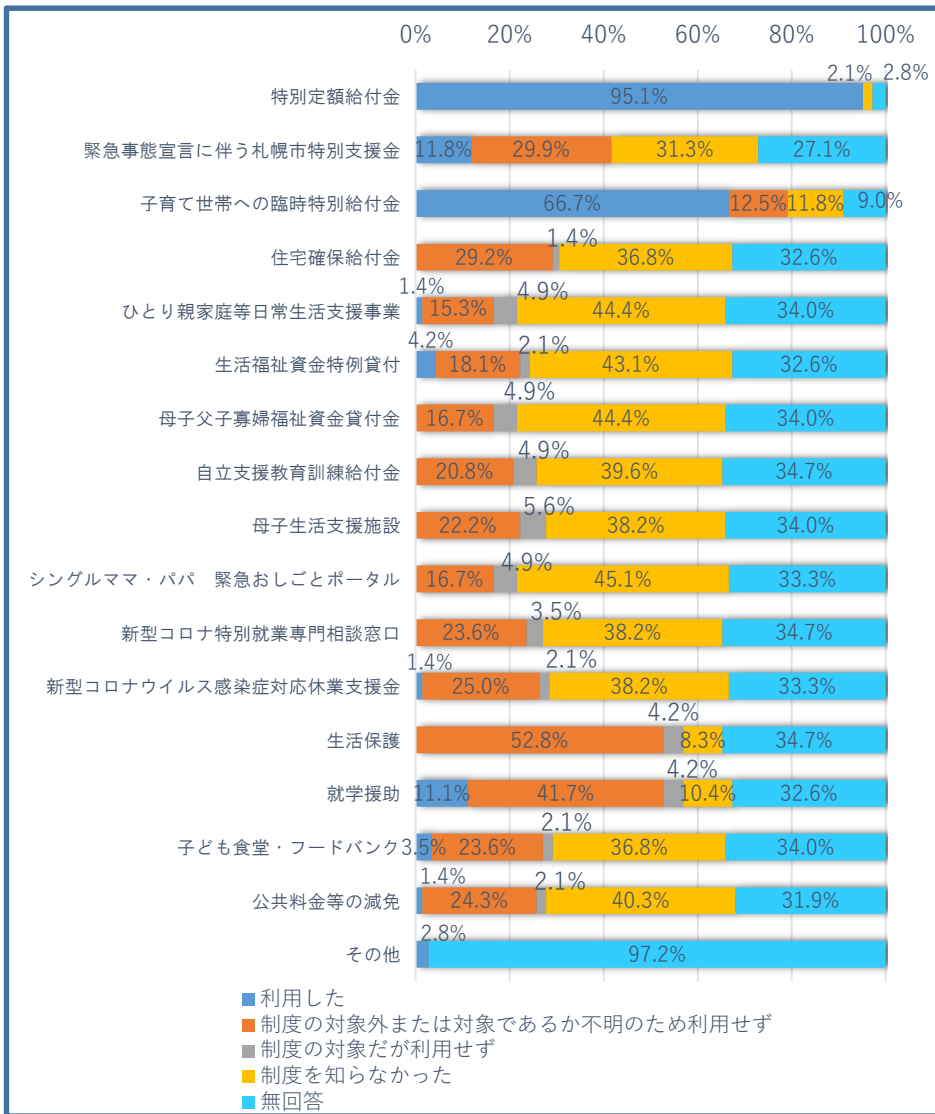


問12 新型コロナウイルス感染症の影響で利用することとなった支援制度等 [複数回答]

各種支援制度について「知らなかった」という回答の割合が全般的に高かった。

家計急変世帯 (N=144)

児童扶養手当受給世帯 (N=209)

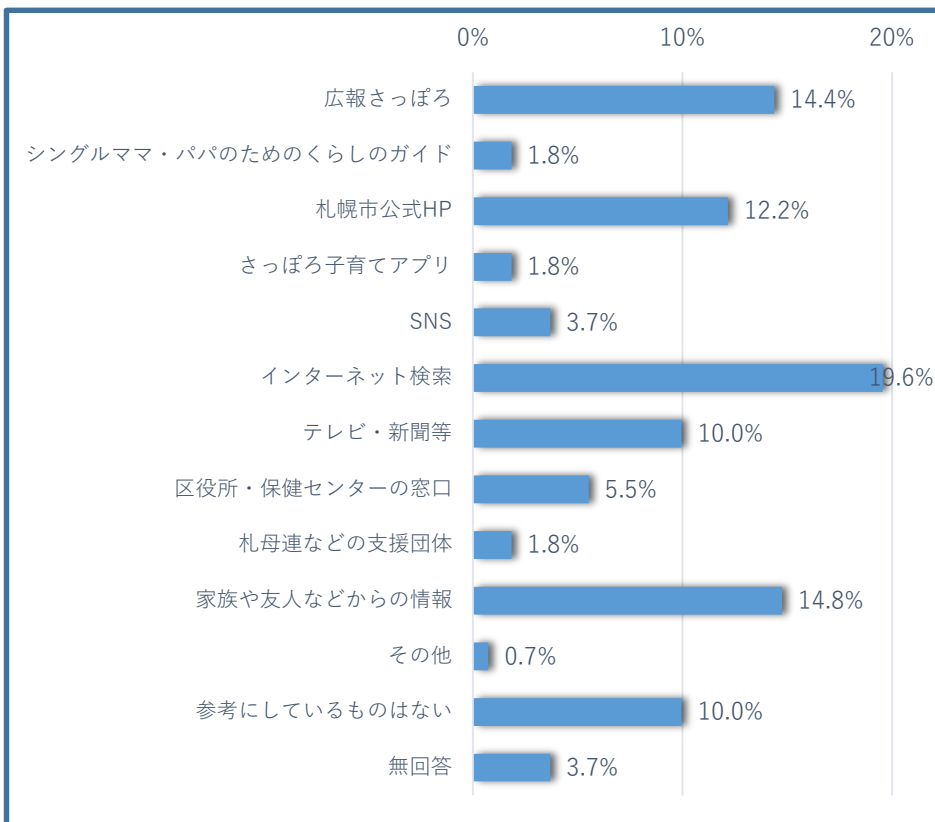


問13 ひとり親家庭向け支援制度等の情報収集手段 [複数回答]

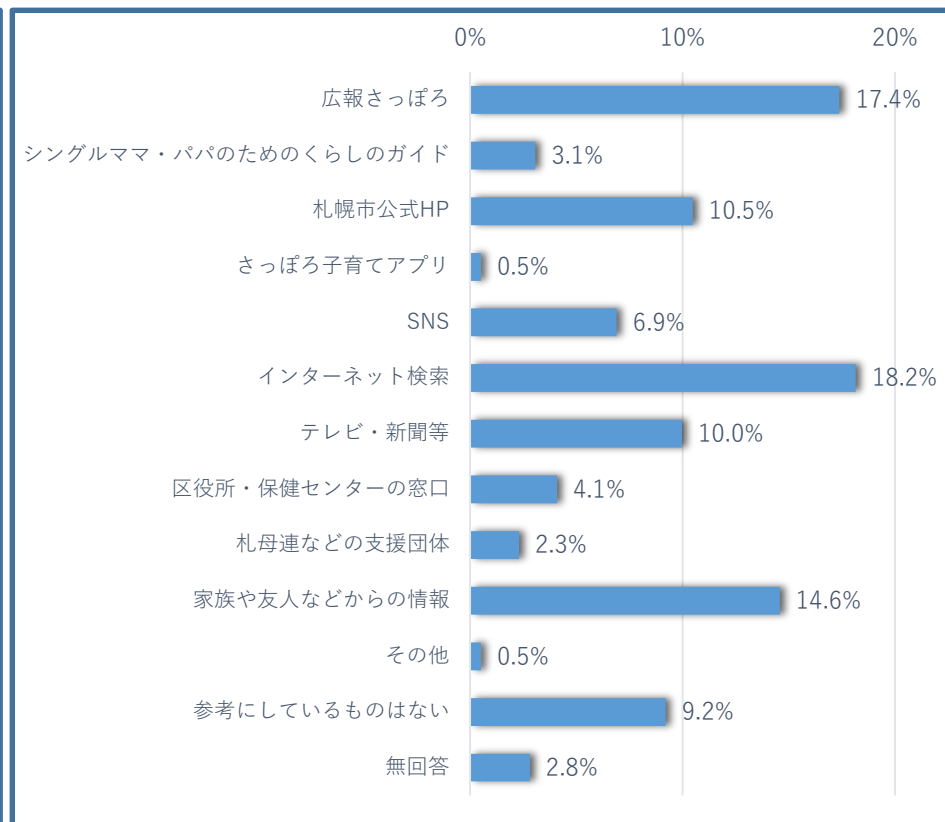
ひとり親家庭向けの支援制度等について情報を得るためにどのようなものを参考にしているか回答を求めた。

最も回答数が多かったのは「インターネット検索」で、2割近くに及んだ。次に多かったのは、「広報さっぽろ」「家族や友人からの情報」であった。

家計急変世帯 (N=144)



児童扶養手当受給世帯 (N=209)



主な自由記載

- ひとり親世帯臨時特別給付金が受給できて助かった。（家計急変18件・児扶手21件）
- 給付金や補助金の更なる支給が必要。（家計急変10件・児扶手20件）
- 既存の支援制度の基準緩和や上乘せを望む。（家計急変11件、児扶手8件）
- 支援制度の積極的周知を望む。（家計急変11件、児扶手8件）
- 前年所得に基づいて対象が決まる児童扶養手当や就学援助などの制度は、困窮者の必要性に対して即時的には応えられない。現在の収入に基づく支援制度の構築を望む。（家計急変14件・児扶手1件）
- 各種給付金が迅速に支給されて助かった。（家計急変8件・児扶手8件）
- 緊急時の子どもの預け先充実を望む。（家計急変5件、児扶手5件）
- 収入の減や支出の増で困った。（家計急変6件、児扶手3件）
- 物資や休校時等の給食の配給型支援を望む。（家計急変4件、児扶手4件）
- 新型コロナウイルス感染症の影響で仕事に支障が出た場合の収入補填を望む。（家計急変1件・児扶手5件）
- 養育費の支払いを義務づけるなど、養育費受取りのための支援を望む。（家計急変4件・児扶手1件）